

# 巻 頭 言

長野県透析研究会会長 上 條 祐 司

2020年初頭に中国武漢からはじまった新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は瞬く間に世界中に拡散し、全世界を混乱に陥れました。

2020年の透析研究会誌の巻頭言では、「来年の今頃には、去年の最初はコロナで大変だったけどみんなの努力で打ち勝つことができたね！と、皆様と実際にお会いすることができて、笑ってお話できる未来が来ていることを強く信じています。」と記載させて頂きました。しかし残念ながらCOVID-19感染症はなかなか収束せず2020年の12月にその勢いを増し、2021年1月には都心などの感染拡大地域を対象として再度緊急事態宣言が発令され、2月に入ってから3月までの宣言延長が決まったところです。

この間、長野県透析研究会では日本透析医会、長野県透析医会、長野県健康福祉部感染症対策課と連携し、長野県内においてCOVID-19陽性透析患者が発生した場合の対応について様々な検討を重ね対応策について協議し発信してきました。2020年に行った主だった活動を列挙します。

- ① 日本透析医会・日本透析医学会新型コロナウイルス感染症対策合同委員会から発信された様々な情報や依頼事項の長野県内透析施設への伝達・拡散、
- ② 各透析施設においてCOVID-19患者が発生した場合の患者情報のレジストリー登録のお願い、
- ③ 透析施設状況アンケート調査による長野県内透析施設のCOVID-19陽性透析患者に対する対応能力の把握、
- ④ COVID-19陽性透析患者対応における問題点の整理と対応についての協議、
- ⑤ 透析患者を対象とした感染症予防対策の啓発チラシの作成、
- ⑥ 長野県健康福祉部と連携し長野県内透析医療体制方針の策定、
- ⑦ 各県のCOVID-19感染症対応状況の把握と情報発信、
- ⑧ COVID-19感染症対応と医療連携体制の構築のための長野県内感染症対策web会議の実施、
- ⑨ 長野県内の透析患者に対するマスクの無償配布、
- ⑩ COVID-19陽性透析患者発生時における医療支援体制の可能性についての検討、
- ⑪ 感染症対策の徹底に対する継続的な情報発信、

などの活動を関係各所と共に行ってきました。

長野県内の透析施設においては、COVID-19の全国的な感染拡大に伴いCOVID-19陽性透析患者の発生が少数認められましたが、これらの様々な対応のおかげもあってか、幸いにも透析室でクラスター化する事例の発生はなく、2021年2月現在なんとか日常の透析医療を維持することが可能となっています。長野県透析研究会に対する各透析施設のご協力に大変感謝申し上げます。

これらの一連のCOVID-19感染症対策の一環として、2020年11月に開催するはずであった第68回長野県透析研究会学術集会は、医療現場が引き続きの対策を取り続ける必要性があったこと、第2波・第3波の感染拡大が危惧されたこと、県内透析従事者が感染した場合には透析患者のクラスター化を起こしてしまう可能性があったこと、などから従来通りの集合的開催は見送りすることを決定させていただきました。

しかしながら、学術集会の中止により、研究発表や論文発表の場が無くなってしまうことがデメリットとして指摘頂きました。それらの問題点を少しでも払拭するため、2020年度第68回長野県透析研究会学術集会は、各医療機関での診療経験や研究結果を共有する場として長野県透析研究会誌における史上初の誌上開催とさせていただくことと致しました。

各施設における感染症対応逼迫の影響を受け、例年よりは投稿された論文は少ないように思われますが、長野県内の透析医療に対する研究活動の火を絶やさないよう努力することは大変意味のあることではないかと考えております。

人類の英知により、様々な治療方法が確立し、新たな治療薬や史上初のRNAワクチンやDNAワクチンも登場し、今後COVID-19感染症を駆逐できる日も近いのではないかと期待したいところです。Social distanceにより、たとえ物理的に距離的に個々人が離れていたとしても、我々の意識は強い絆で結ぶことができます。そして、その強い絆のもと、多くの情報収集とデータ解析と予想される問題点の抽出、そして抽出された問題点に対する対応協議により構築された方策は、おそらくとても効果的に機能することが期待されます。そして、このようなプロセスはウイルス感染症対策のみならず、今後起こりうる様々な難題に対しても応用できるのでないかと考えます。

現在、透析医療においては、多くの透析合併症に対する課題、透析患者の高齢化やそれに基づくサルコペニア・フレイルなどの問題、尊厳ある死と透析医療との折り合い等々、様々な難題が山積みされています。

長野県透析研究会や長野県透析研究会誌が、これらの難題に対する様々な観点からの活発な議論に寄与し、より良い方針の構築に貢献することを願っています。ぜひ、心を一つにし、透析患者さんも医療スタッフも皆様のご家族も誰一人として失わないよう、みんなで知恵を出し合い頑張りましょう！！

なお、第69回長野県透析研究会学術集会は2021年9月にweb配信を利用したハイブリッド集会として開催を予定しています。2020年になかなか自由に発表できなかったフラストレーションを、その場においてぜひ晴らして頂ければと思っています。

今後とも、よろしく願い申し上げます。